

論文

方定煥と朝鮮少年運動協会の〈オリニナル〉  
— 1920年代東京の「児童保護宣伝」(1921年4月・11月)、  
「児童愛護デー」(1922年5月)と比較して—  
A Study of Korean Children's Day of Bang Jeong-hwan  
and the Korean Youth Movement Association  
—Compared to the 1920s 'Child Protection Promotion'  
and 'Child Welfare Day' in Tokyo—

大竹聖美

In May 1922, Children's Day events were held in both Korea and Japan. The Children's Day in Korea was an anti-colonial, independence, and ethnic movement, aiming to liberate the oppressed peoples and children.

On the other hand, the Children's Day held in Japan was a nationalistic event, desiring for strong children in order to strengthen its national power, which is symbolized by Iwaya Sazanami's catchphrase, "Children are truly our great national treasure," as well as by the display of warrior dolls and armor.

キーワード：近代児童文化／韓国児童文学／方定煥／オリニナル／朝鮮

1. はじめに

韓国では、2022～23年にかけて「オリニナル(어린이날) 100周年」を記念する様々な行事が全国各地で執り行われた。たとえば、2022年4月30日～5月31日までの一か月間、日本の文部科学省に該当する文化体育観光部は、社団法人方定煥研究所、社団法人オリニ図書研究会、オリニ文化連帯(어린이문화연대)、オリニ青少年図書作家連帯(어린이청소년책 작가연대)、天道教中央総部、社団法人韓国児童文学人協会などの六つの機関と共に「2022オリニ文学週間」(図1)を行った。「オリニ」は子どもを意味する朝鮮・韓国語で、「オリニナル」とは子どもの日(オリニ(어린이/子ども) + ナル(날/日)) のことである。

韓国では、1961年に制定公布された児童福祉

法によって5月5日を「子どもの日(オリニナル)」と定め、1970年に「官公庁の祝日に関する規定」により公休日に指定されて以来、5月5日



図1 オリニナル100周年記念「2022オリニ文学週間」ポスター、大韓民国文化体育観光部・文化芸術委員会

は子どもたちの幸せを願う未来志向的な祝日になっている<sup>1</sup>。

この韓国の5月の行事として定着しているオリニナルは、そもそも方定煥が1921年5月1日に少年運動・児童文化運動として結成した天道教少年会の設立一周年を記念して1922年5月1日にオリニナル<sup>2</sup>の街頭宣伝をしたことと、続く1923年5月1日に天道教という枠組みを外して全国規模に拡大した「少年運動協会」を発足させながら第一回オリニナルを開催し、同日東京でも方定煥が主催する朝鮮人留学生による少年問題研究会「セクトン会(색동회)」の創立発会式を行ったことを起点としている。そのため、2022・23年は100周年に該当するのである。

1922年に初のオリニナル記念式典が開かれた天道教中央大教堂(ソウル鍾路区)ではオリニニ図書館研究会主催「オリニナル100周年、韓国童話100年」展も行われた。朝鮮初の児童文芸誌『オリニ』を方定煥が創刊したのも1923年3月であり、韓国児童文学史においては『オリニ』誌の出現をもって韓国童話の歴史が語られているからである。『オリニ』は、日本の『赤い鳥』や『金の船』に例えられる児童文芸誌であり、現在も国民的愛唱歌として歌われている李元壽「故郷の春」などの近代童謡や童話を生み、その後の韓国児童文学史をかたちづくっていった重要な童話作家、童謡作家を輩出した。

また、国立民俗博物館オリニ博物館では、2022年5月4日から24年3月11日にかけて、「今日はオリニナル—ソパ(小波)方定煥のおはなしの世界」(図2)という企画展を行い、子どもたちが方定煥の児童文化運動や創作童話の世界を学び、体験できるような空間を用意した。そこでは、1931年1月号の『オリニ』の付録だった「世界発明双六(세계발명말판)」の復刻版(図3)を作成し、1930年代の時代性を学習させている。電気、自動車、汽車、飛行機、ラジオ、電話、時計など、当時の朝鮮の子どもたちにとっては大変珍しかった近代文明の利器



図2 国立民俗博物館オリニ博物館「今日はオリニナル—ソパ・方定煥のおはなしの世界」展ポスター



図3 1931年1月号『オリニ』付録、世界発明双六(세계발명말판)復刻版(国立民族博物館オリニ博物館制作)

が描かれている双六である。

ところで、このような朝鮮初のオリニナルや『オリニ』誌を手掛けた方定煥は、1919年に3・1独立運動にかかわった後、1920年9月頃から東京に滞在していた。1921年4月9日には東洋大学専門部文化学科に入学し、1年間在籍。その後は、1922年7月に京城で世界名作童話集『愛の贈り物(사랑의 선물)』(開闢社)を出版したり、1923年3月16日に東京滞在中の朝鮮人留学生を集めて少年問題研究会「セクトン会」を結成し、『オリニ』誌を編集、創刊している。そして、同年5月1日に少年運動協会主催で京城で第一回オリニナルを開催したのと同時に、方定煥は東京で「セクトン会」の発会式を挙行政した。

つまり、朝鮮初の子どもの日の創設や韓国児童文学の出発点と見なされる児童文芸誌『オリニ』の創刊など、韓国近代児童文化・文学成立期における最重要事項は、その創始者であり朝鮮の子どもの父として図2のポスターのように現在も英雄視される方定煥が、東京に滞在しながら断続的に東京・朝鮮を行き来していた1920年秋～1923年夏の時期の成果だったのである。そのため、その頃の日本の児童文化の状況と切り離して方定煥の業績や韓国児童文学成立過程を理解することはできない。本稿では、韓国児童文学100周年の起点にあたり、その立役者である方定煥が滞在していた1922・23年の東京の児童文化状況、とくにオリニナルのヒントになったであろう「児童保護宣伝」「子供日」(1921年)、「全国児童愛護デー」(1922年)などの日本の児童福祉・幼児教育・児童文化運動について俯瞰したい。

## 2. 1921年、『幼児教育』創刊20周年行事 ——「児童保護宣伝」＝「子供日」

方定煥が東洋大学に入学してまもない1921年4月23日、日本幼稚園協会主催「児童保護宣伝」が開催された。これは、幼稚園教育の月刊専門誌『幼児教育』<sup>3</sup>創刊20周年を記念した行事であった。

この時期、方定煥は東京に滞在し、東洋大学に通っていた。果たして方定煥は、20年を重ねた日本の幼児教育の歴史を背景に開催された東京の「児童保護宣伝」の行事をどのように見たであろうか。図4のような子どもの旗行列や、図5のような宣伝カーや宣伝ビラ配布活動を直接見たであろうか。日比谷公園や上野山下、四谷見附、駿河台下など東京市12か所で宣伝ビラが飛ぶように配布され、ある幼稚園では「児童保護宣伝」の短冊をぶら下げた風船が万歳の声とともに一斉に空へ飛ばされた<sup>4</sup>。

翌日の『東京朝日新聞』には、「児童保護の宣伝」「ビラ七十万」「昼夜の講演会」「将来は児童専用の公園や娱乐场所を設立する」という見



図4 1921年4月23日、日本幼稚園協会主催「児童保護宣伝」で日の丸の旗を振り行列する子どもたち(日本幼稚園協会『幼児教育』第21巻第5号、巻頭写真、1921年)



図5 1921年4月23日、日本幼稚園協会主催「児童保護宣伝」での宣伝カーとビラ配布(日本幼稚園協会『幼児教育』第21巻第5号、巻頭写真、1921年)

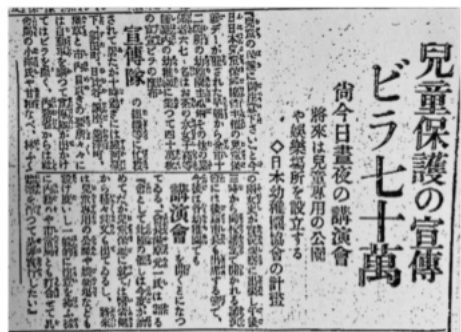


図6 『東京朝日新聞』1921年4月24日夕刊、2面

出しが目を引く記事が掲載されている(図6)。以下に引用する。

児童保護の宣伝

ピラ七十万

尚今日昼夜の講演会

将来は児童専用の公園

や娯楽場所を設立する

◇日本幼稚園協会の計画

『児童の保護に御注意ください』と今日日本児童保護協会主催の児童保護デーが催された早朝から全市十二か所の幼稚園主保母その他の関係者67名はお茶の水女子高等師範内の幼稚園に集まって40万枚の宣伝ピラの配布／

宣伝隊の組織等に忙殺されて居たが10時過ぎには駿河台下、須田町、日比谷、銀座、亀澤町、浅草と市内日貫の要所要所には自動車を駆って宣伝隊が出かけてはピラを撒く、内務省からは社会局の小澤氏や甘粕なべ、林ふくの両女史が実況視察に出張し午後三時から同校講堂で開かれる講演会には後藤市長も出席するはずで、今後は各幼稚園でも／

講演会を開くことになっている、会長湯原元一氏は語る『会としてこの種の催しは今度が初めてだが児童保護については医者側から種々注文も出ているし、将来は児童専用の公園や娯楽場なども設けたいし一般的に注意を払う様に内務省や市当局とも打ち合わせて具体案を作ってぜひ実行したい』<sup>5</sup>

こうした1921年「児童保護宣伝」行事は、その前年の1920年11月26日の日本幼稚園協会評議員会にて開催が決定されたものである。内務省、文科省官僚も出席する中で、託児所保母養成機関の設立決議などとともに、『幼児教育』20周年記念行事として決定された。

…一大講演会を開き、名士の講演とともにこの期を利用して大々的に幼児の養護、その教育の宣伝をし、特に「子供日」ともいふべき日を定めて、充分、世の注意を促したい…<sup>6</sup>(下線は引用者)

1921年「児童保護宣伝」行事のことを、ここでは「子供日」と呼んでいる。この日本語を朝鮮語に翻訳すると‘어린이날’ (어린이 (オリニ／子供) + 날 (ナル／日)) = オリニナル (子どもの日)) ということになる。方定煥は、この1921年「児童保護宣伝」=「子供日」から、朝鮮の「オリニナル」を着想したのかもしれない。「オリニナル」は「子供日」の直訳であるし、行事の形態も類似している。ピラをまき、行列を行い、講演会を行うというイベント開催方法は、朝鮮のオリニナルもほぼ同様であった。

ただ、ここで注意しておくべきは、日本の「子供日」は内務省、文科省、帝国教育会、官立幼稚園などが主導した、子供の保健・衛生・保育・教育・福祉に関する啓蒙事業だったことである。

たとえ名称や形態は似ていても、朝鮮の「オリニナル」は、3・1独立運動の中心的役割を果たした革新思想を持つ民衆宗教団体であり、社会改革運動と民族独立運動の推進体である天道教の幹部だった方定煥が行ったものであり、日本の官主導、中央主導の「児童保護」とは正反対の、抑圧からの解放を求める民衆運動の性質をもつものだったという点を指摘しておきたい。

### 3. 東京市児童郊外保護会「児童保護宣伝」(1921年11月)の宣伝内容と方定煥の「オリニナル宣言文」(1923年)の類似点

次に、1921年11月に行われた東京市児童校外保護会による「児童保護宣伝」を見てみたい。その様子は『東京朝日新聞』が報道した(図7)。以下に引用する。

児童保護宣伝

ビラを配布

東京市児童校外保護会では21日より26日に至る6日間児童保護宣伝をするが宣伝方法は各市立小学校に於いて保護者に対し講演会を開くこと、保護者に小型宣伝ビラ30万枚を配布すること、市内適宜の場所に大型宣伝ビラ3千枚を掲示することの三つで小型ビラにはこんな文句を印刷する

言葉や取り扱いをやさしくして下さい  
睡眠と栄養を十分與へて下さい  
病は油断なく早く治してやつて下さい  
遊びの場所や仕方によく注意して下さい  
良くない興行物は見せないで下さい  
時々動植物園等を見せたり郊外へ連れて行つたりして下さい<sup>7</sup> (下線は引用者)

以上が、1921年11月22日『東京朝日新聞』朝刊5面に掲載された東京市児童校外保護会の「児童保護宣伝」(図7)に関する記事内容である。ここで注目すべきは30万枚配布したというビラに書かれた文言である。6行にわたって掲載されている(上記引用下線部)。

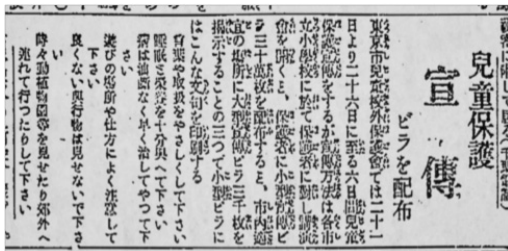


図7 『東京朝日新聞』朝刊5面、1921年11月22日

この資料は、今回筆者が朝日新聞のデータベースから児童保護関連の記事を調査し、発掘したものであるが、この発掘にあたっては、一つの仮説をもって調査に当たっていた。つまり、方定煥研究を継続してきた中で、方定煥が朝鮮で刊行したとされる世界名作童話集『愛の贈り物』(開闢社、1922年)や児童文芸誌『オリニ』(開闢社、1923年)が、日本の1920年前後の児童文化の隆盛の中で流行していた模範家庭

文庫『世界童話宝玉集』(富山房)や雑誌『金の船』などを参考にして刊行されたことが実証的に明らかになってきた<sup>8</sup>ため、オリニナルに関しても同様に、何か日本にモデルとなるものがあつたのではないかという発想である。

そのような仮説で調査をする中で、1921年の4月や11月に行われた「児童保護宣伝」の新聞記事を発掘した。

そして、さらに注目させられたのは、上述した1921年11月21日～26日実施の東京市児童校外保護会「児童保護宣伝」で配布された30万枚のビラに書かれた6行の文言である(図7ならびに上記引用下線部参照)。これは、1923年5月1日のオリニナル記念祝賀会で配布されたビラに書かれた朝鮮語の「大人たちに捧げる文」と内容が大変類似している。以下全文引用する。

- 一、オリニを見下ろさず、見つめてください。
- 一、オリニを近くにおいて、しょっちゅうお話を聞かせてやってください。
- 一、オリニに敬語を使い、いつも優しくしてください。
- 一、散髪やお風呂のようなものを適切な時にしてやってください。
- 一、寝ることと運動することを十分にさせてください。
- 一、散歩と遠足のようなことを十分にさせてください。
- 一、オリニを責める時には簡単に怒らないで、詳しく言い聞かせてください。
- 一、オリニたちが集まって楽しく遊べる遊び場や機関のようなものを建ててください。
- 一、大宇宙の脳神経の末梢は、年寄りにはなく、若者にもなく、ただ子どもたちだけにあるものであることをいつもお考えください。(引用者翻訳、下線は引用者)<sup>9</sup>

引用者が付した下線のある文言はほぼ同じ内容である。第一に、子どもに対する言葉遣いを丁寧にし、優しく接すべきであると述べ、つまり子どもの人格尊重を訴えた。次に、栄養・睡眠・運動・保健・衛生に注意しなくてはならないという子どもを養護・養育する上での重要事項を述べ、最後に散歩や郊外への遠足、動植物園や遊び場が必要であるとして、大きく3つのポイントを提示した点で同じ構造を持っている。

そうした類似点を指摘したうえで、その他の文言に関しては「大人たちに捧げる文」独特のものであることを述べておきたい。まずは、「オリニを見下ろさず、見つめて下さい」という文言と「オリニを責める時には簡単に怒らないで、詳しく言い聞かせてください」という文言であるが、これは一言で言うと、従来の儒教規範による旧弊からの子どもの解放を訴える方定煥の思想が反映したものであると思われる。つまり、敬うべきは年長者であって、子どもは童蒙（ドンモン／동몽）と呼ばれたように、道理に暗く無知蒙昧な存在として尊重せず、抑圧してきた朝鮮社会への批判である。

次に、「オリニを近くにおいて、しょっちゅうお話を聞かせてやってください」という文言は、世界名作童話集『愛の贈り物』（1922年）を出版し、児童文芸誌『オリニ』（1923年3月）を創刊し、口演童話会を行った方定煥らしい一文といえる。

そして、注目すべきは最後の文言であるが、この「大宇宙の脳神経の末梢は、年寄りにはなく、若者にもなく、ただ子どもたちだけにあるものであることをいつもお考えください」という独特な表現は、儒教的な価値観をひっくり返す内容でもあるし、宗教的・神秘的でもある。ここには、天道教人であった方定煥の核心思想が表現されているといえるのではないか。

韓国では現在、1923年のオリニナルで配布されたビラに記載されたこの「大人たちに捧げる文」について、その他の宣言文と合わせて、1924年の児童の権利に関するジュネーブ宣言

に先立ち、方定煥が世界で初めて子どもの人権宣言をした「オリニ宣言文」とであると広く認識されている。

しかし、この「大人たちに捧げる文」は、日本において1921年11月に東京市児童郊外保護会が「児童保護宣伝」行事の中で配布した30万枚のビラに書かれた文句と大変類似しているということと、1920年～23年は方定煥が日本に滞在していた時期であるということ踏まえて、当時の日本の児童文化状況との関係性をさらに具体的に検証すべきである。

#### 4. 1920年：内務省主催「児童衛生展覧会」

さらにさかのぼると、ちょうど方定煥が渡日したばかりの頃に該当するが、1920年10月24日から11月22日まで内務省主催「児童衛生展覧会」という大きな啓蒙行事が東京教育博物館で行われていたことにも注目したい。この「児童衛生展覧会」は、その後に続いた各種団体、各地域における「児童保護」や「児童愛護」の一連の行事の先駆であったと思われる。

この展覧会は、1921年4月に内務省編纂『児童の衛生』として同文社より刊行された書籍（図8）の中で詳細が報告された。

この『児童の衛生』（同文館）の「発刊の辞」

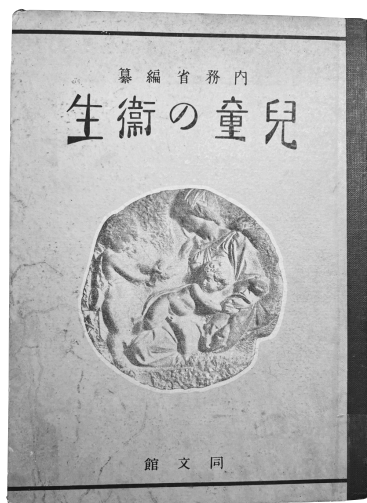


図8 内務省『児童の衛生』同文館、1921年

には次のように「児童衛生展覧会」開催の目的が記されている。

児童は、やがて国民の中堅となって将来の国運を双肩に荷うものである。欧米先進国においては、以前から児童衛生に注意して、その刷新改善に努めてきたので、その効果は幼児死亡率の漸減に現れるに至って、世界大戦のあと、各国いづれも国民の衛生状態を一層良好ならしめるに腐心し、第二国民の育成養護をますます重大視するに至った。

由来子女を愛撫し、生母が手づから哺育する(乳母ではなく、生母が母乳で育てる)美風が行われる我が国に、最近幼者の死亡率が比年増加の趨勢にあり、文明国中ほかに儷なき高率を示すに至ったのは、真に戒心すべき事実であって、それが原因の究明と対策の考究とは、一日を緩うすべきでない。これゆえに政府が学識経験ある人を委員とし、保健衛生調査会を組織して調査の事に従しめると共に、その成績に基いて東京教育博物館に於いて児童衛生展覧会を開催し、児童に関する衛生思想の普及を計った所以であり、又今その出陳の資料や講演の記録等を按排して本書を編纂し、広く世に頒布して以て後継国民の保健増進に責せんとする所以である。大正十年四月内務省<sup>10</sup>(下線は引用者)

つまり、第一次世界大戦後、先進国に比して日本の乳幼児死亡率が高いことに内務省は危機感を持ち、その対策として啓蒙事業としての「児童衛生博覧会」を企画したということである。そして、子どものことを、「やがて国民の中堅となって将来の国運を双肩に荷うもの」と定めている。〈国家のための子ども〉という児童観である。

## 5. モデルとなったアメリカの「こども週間」

この啓蒙事業にはモデルがある。『児童の衛生』では、「アメリカ合衆国に於ける「こども週間」]として報告されている。

「こども週間」は、1914年にシカゴとニューヨークで行われたのが嚆矢で、1916年にアメリカ労働省児童局・婦人協会主催で「こども週間」を大々的に行い全国的に行われるようになった。事業としては、展覧会・講演会・健康診断・こども行列などを行い、新聞雑誌には育児問題を掲載し、子どもを無料自動車で郊外に連れて行ったり、赤ん坊のある家では国旗を掲げたり、種々の子どもの喜びそうな、そしてためになるような催しをした。<sup>11</sup>

こども週間の目的は、唯一時的に児童の保健及び保護に関する思想を普及するだけではなく、尚進んでそのために次のような施設や制度、法令を促進するものであった。

- 一、育児保護所、妊産婦保護所、巡回看護婦等の普及。
- 二、産院及び小児病院の特設、一般病院内に産室、小児病室の設置。
- 三、児童衛生課もしくは児童衛生局の特設。
- 四、児童のための夏季保健施設。
- 五、児童の保健及び保護に関する法令の公布。
- 六、一般衛生施設の完備。<sup>12</sup>

アメリカのこのような「こども週間」の啓蒙事業は、1918年には「こどもの年」としてさらに規模が拡大され、「児童の保健は国民の威力なり」という標語の下、全国的な運動が継続されたという。日本は、こうしたアメリカの国策に学んだのである。

『児童の衛生』の巻頭カラー口絵には、「幼稚園を増設せよ」「遊園を増設せよ」「専属学校医を置け」「児童相談所を設けよ」「大庭園を開放せよ」「新聞に児童欄を設けよ」などと書かれた旗を振りながら行進する子どもたちが描かれている(図9)。幼稚園の白いエプロンをつけ

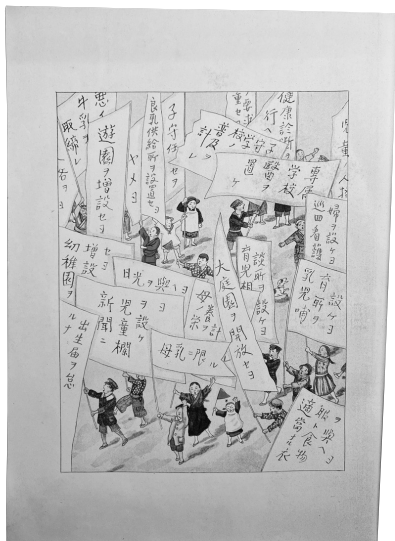


図9 内務省『児童の衛生』同文館、1921年、巻頭口絵



図10 内務省『児童の衛生』同文館、1921年、p. 91、巖谷小波「児童衛生かぞえ歌」

た幼児から、小学校の制服を着た児童までいる。この風景は、この後に続いた「児童保護宣伝」や「全国児童愛護デー」の行事に繋がる。

『児童の衛生』では、「妊娠と分娩」「栄養と発育」「育児と養護」「住居と用品」「被服と寝具」「疫病と治療」の6つの領域に分け、専門家による詳しい解説と豊富な写真資料が掲載された。巖谷小波による「児童衛生かぞえ歌」も

「育児と養護」の章で掲載された(図10)。「一つとや、人の親なら子供らを、子供らを、大事に育てよ、家のため、國のため。」と七五調の歌で、子育ては「家のため、國のため」という発句が印象的である。巖谷小波の児童観が端的に表れており、近代日本の児童文化における巖谷小波の役割がよく表れている一句である。

## 6. 1922年5月5日、全国的に実施された「児童愛護デー」

さて、1922年5月は、方定煥が天道教少年会設立1周年を記念したオリニナル行事を朝鮮・京城において初めて行ったことから、冒頭で紹介したように2022年5月には韓国で様々なオリニナル(子どもの日)100年、児童文学100年の記念行事が行われた。

だが、実は1922年5月5日の端午の節句前後に、日本でも全国的に「児童愛護デー」という名称で児童の衛生・保健・福祉・教育・権利にかかわる大々的な行事が行われていたことを知っておくべきである。これは、上述した1920年の「児童衛生博覧会」、1921年の4月と11月の「児童保護宣伝」の延長線上にあるものとする。方定煥は3・1独立運動の翌年である1920年秋に渡日し、1923年夏、関東大震災の前まで東京に滞在していたので、こうした日本の児童保護・愛護運動に接していたことが考えられる。そのため、方定煥の「オリニナル」におけるチラシの配布、ポスター掲示、行列行進、宣伝、講演会などの行事形態が、1921年に東京で行われた「児童保護宣伝」や1922年「児童愛護デー」と似通っているのではないだろうか。

1922年5月5日に行われた「全国児童愛護デー」は、東京の他、大阪、京都、神戸、広島などの大都市で同時に行われ、例えば東京なら5月4、5、6日、大阪では5月5、6、7日というように、5月5日を必ず入れたうえで、各地域の事情に合わせて3日間で開催された。

この「全国児童愛護デー」実施に先立ち、1922年3月に刊行された日本幼稚園協会の『幼



『児童教育』誌の付録に「全国児童デーに関する調査報告」(以下「調査報告」)が掲載されている。この「調査報告」は、1921年にすでに開催されていた類似の、しかし地域限定的であった東京<sup>13</sup>と大阪<sup>14</sup>の児童愛護啓蒙行事を調査報告したもので、ポスター見本を掲げながら(図11)、5月の全国的な児童デーを実施するように指南する内容であった。

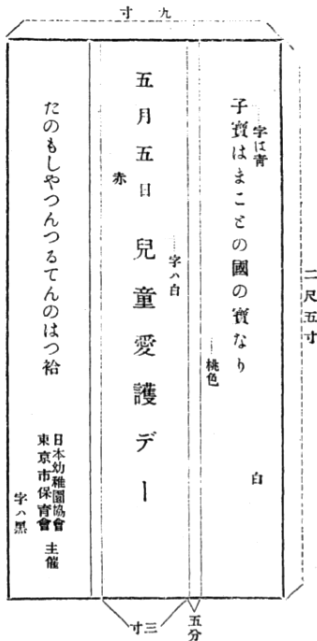


図11 児童愛護デーのポスター見本(『全国児童デーに関する調査報告』『幼児教育』第22巻第3号、1922年3月、付録2p)

そもそも「全国児童愛護デー」の開催は、1921年11月に開催された帝国教育会主催「全国保育者大会」にて決議されたものであるが、この実施に関しては、日本幼稚園協会に委託することとされていた<sup>15</sup>。図4・5・6のように、日本幼稚園協会は、すでに1921年4月に「児童保護宣伝」を開催した実績を持っていたからと思われる。

「調査報告」に記載された開催の条件や準備に向けた概要は次の通りである。まずは、開催日を指定していることに注目したい。

「5月5日は全国何れの地方にても意義ある日でこの日を全国児童愛護デー」とし、「何れも5日の意義ある日を必ずくわえられるように」<sup>16</sup>という開催条件が明記された。

次に、ポスターについて方針を示している。「色彩と図案によって人の注意を惹起するもの」「絵画を挿入する場合には児童の愛らしさと快感を起こさしむるもの」で、ポスターの中には必ず「全国児童愛護デー」というタイトルの他、期日、標語、行事などを入れること。さらに、ポスターの掲載場所として役場、停車場、電車、汽船内、湯屋、理髪所、商店などを指定した<sup>17</sup>。

宣伝ビラは、1921年に実施された東京と大阪の児童愛護啓蒙行事の事例が見本として掲載された。

東京の事例とは、1921年4月23日に実施された日本幼稚園協会主催の「児童保護宣伝」のことで、ここでは35万枚の宣伝ビラが作成され、東京全市の小学校の児童を通して家庭に配布され、図5のように横断幕を張り巡らされた宣伝カーとともに、保母らの手で東京12か所で配布宣伝された。「持つべきものは子供なり」「万の倉より子は寶」といった子どもの存在の大切さや価値、「子供は親の生きた鏡」といった子どもの養育や教育を啓蒙する標語が目立つ宣伝ビラだった(図12)<sup>18</sup>。

宣伝ビラの配布方法は、1. 中等学校、小学



図12 1921年4月23日、日本幼稚園協会主催「児童保護宣伝」で配布された宣伝ビラ

校、幼稚園等の児童を通じて家庭に配布、2. 交通頻繁な街路、停車場、その他群衆の場所、3. 自動車宣伝、4. 寺院、神社、商店等人の多く集まるところ、寄席、芝居、活動写真館等を示した。また、「ピラは数多きほど効力あり」として、「有志の寄付金」「商店街の寄贈」で作成するようにということも示されている<sup>19</sup>。

大阪の事例とは、1921年11月6日に実施された大阪市保育会、大阪児童学会、日本児童協会、大阪コドモ研究会、コドモ用品研究会が共同で主催した「コドモ宣伝デー」のことで、3種15万枚の宣伝ピラが作成された。「コドモ宣伝デー趣旨」が書かれたピラ(図13上段)では、「強い子を生み、その子を賢く且つ善良に育てることは今日急務中の急務であります。この目的を達するため、吾々は全心全力を盡すのが当然であります。今日の子供を見るに、その自由や権利は極端に束縛され、非衛生や不道德のことが幾らでも放任されているではありませんか。」と書かれた。さらに、「現今家庭と学校と社会とは子供に対する責任を十分果たして、あるべきではありませんか」と問いかけながら、コドモ宣伝デーを主催したのは「積極的に児童の権利を増進するため、国民動員を希望する」ためであると、市民に対する子供の権利と養護と教育を啓蒙する運動であることが述べられた。そして、「愛せよ、敬せよ、強く育てよ」という標語が目立つように記されている(図13上段)<sup>20</sup>。

また、大阪の「コドモ宣伝デー」の別のチラシには、「大阪のコドモの為に設けてほしい事業」として、子どもの福利増進のための事業が14列挙されており(図13下段)、具体的には次のような事業が挙げられている。①牛乳配給所、②家庭訪問による巡回育児指導、③小児専門歯科医院、④貧困の子どもへの食事提供所、⑤病後回復期の児童保養所、⑥児童専用遊園地、⑦児童専用屋内水泳場、⑧英才教育機関、⑨常設林間学校、⑩障害児教育施設、⑪児童虐待防止事業、⑫児童専用娯楽施設、⑬母親のための育児学校、⑭児童研究所。そして、「自然



図13 1921年11月6日、大阪「コドモ宣伝デー」で配布された宣伝ピラ

と自由はコドモの生命」「コドモ育てよ、先ず真直ぐに、まんまるに」という標語が目立つように記された(図13下段)<sup>21</sup>。

さらに、1922年5月5日の「全国児童愛護デー」のために、巖谷小波に依頼して「子宝12句」という12の標語まで用意された<sup>22</sup>。発句として謳われているのは、「子宝はまことの国の宝なり」である。まさに巖谷小波らしい一句であり、朝鮮のオリニナルと対比的な近代日本の子どもの日の特徴を一言で言い現わしている。図11ポスター見本右列にその文言が記されている。

このほか、講演会の開催も「全国児童愛護デー」の開催要件として挙げており、「児童愛護の趣旨徹底を計る為に各要所の学校、公会堂、寺院などにて講演会を開くこと」<sup>23</sup>とした。

そして、いよいよ東京では、5月5日の「児童愛護デー」初日を迎える前日、1922年5月4日の『東京朝日新聞』朝刊に「児童愛護デー」の記事が掲載された(図14)。

「こども第一」「端午の節句を中心に」「講演や設備の宣伝」という見出しが目を引く。



図14 「東京朝日新聞」朝刊5面、1922年5月4日

「端午の節句を期として子供の幸福のために児童愛護デーが全国に互って行われる」「7日の日曜に市内の基督教会、寺院で教壇から児童保護の精神を説き伝える」<sup>24</sup>と報道した。そして最後に倉橋惣三の言葉を以下のように紹介している。

昨年もビラで宣伝したが、今年は「わが子可愛<sup>ママ</sup>や人の子も」或は「こども第一、國の寶家の寶」と云う様な標語のポスターを市内各所に頒布します。特別な公園図書館も設備し又道路電車上の子供のために事故をなくしたい。当面の急務として小学校幼稚園児童の登校時には電車自動車は学校の前を徐行し、或は交通巡査を派遣して整理する位の親切を大都市ではやって貰ひたい。英米ではどんな小さな学校の前でも乗物徐行の立札が建っている。昨年六月私が倫敦に居た時恰度ナショナルベビーウィークがあったが種々の企てに伴って新聞もグラフィックなどを出して応援して居ました<sup>25</sup>。

ここでは、イギリスの「ナショナルベビーウィーク」を紹介している。やはり、朝鮮のオリニナルに先行するものとして日本の「児童保護宣伝」「児童愛護デー」を挙げることができ、日本のそれらのモデルとして1910年代アメリカの「こども週間」やイギリスの「ナショナルベ

ビーウィーク」を挙げることができるのである。

このような準備を経て「全国児童愛護デー」は実施された。そして、『幼児教育』1922年5月号の「会報」には、無事終了した「全国児童愛護デー」の実施報告が掲載された。

1922年5月の「全国児童愛護デー」は、東京の他、大阪、京都、神戸、広島などの主要都市を含みながら全国一斉に開催される初めての試みだった。そのため、運営上の代表を任せられた日本幼稚園協会と東京市保育会は、全国的な開催概要の一致について心配した模様で、図15のような檄文を全国の主催団体に送ったことも報告されている。特に注意したのは、「5月5日の子供の節句」を必ず入れるという申し

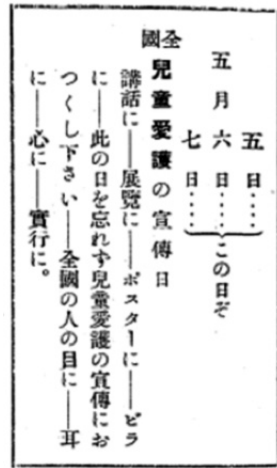


図15 日本幼稚園協会が「全国児童愛護デー」実施に向けて全国の主催団体に送った檄文(『会報』『幼児教育』第22巻第5号、1922年5月、169p)

合わせを忘れないようにということだった。

日本は、古代より中国からの影響を濃厚に受けており、端午節も中国から伝来であるということは民俗学上定説になっている。833年の文献(『令義解』)では、「5月5日を節句とせよ」という記述を確かめられるという<sup>26</sup>。ただし、中国から伝わった端午節は、必ずしも子どもの節句だったわけではなく、5月の季節(高温多湿で疫病、害虫の害が増加する)に応じた無病息災を願い、邪気悪霊を払い、五穀豊穡を祈る

祭礼の日だった<sup>27</sup>。こうした魔除けの意味で菖蒲を飾ったり、菖蒲湯に入る風習が伝わったようだ。これは、朝鮮の端午節でも同様である。朝鮮では、陰暦5月5日の端午節に菖蒲を煮た湯で髪を洗い、暑い夏に向けた厄払いを行う風習があり、今に伝わる。この「菖蒲」が、日本の場合、同じ発音の「尚武」に置き換わり、武具甲冑を飾る現在の5月の節句に変化していったようである。武具甲冑を飾り鯉のぼりを飾る風習は中国や韓国には存在せず、日本だけで見られる端午の節句の風景である。

つまり、古代中国から伝わった無病息災を願う邪気払いの菖蒲の端午節は、中世の武家社会を経て尚武の節句に変容し、武家で飾られた甲冑や幟の装飾が近代に入ってから富国強兵や立身出世を願う方向に転じ、立身出世を象徴する鯉のぼりで縁起を担いだり、甲冑・武者人形を装飾しながら、富国強兵のスローガンの下、国家を担う強くたくましい「子どもの節句」へと変化していったのではないだろうか。韓国では、現在も国民の祝日である5月5日のオリニナル(子どもの日)と旧暦5月5日の端午節は全く別物であり、区別されている。韓国の伝統的な端午節の行事としては、現在も初夏の風物詩としての邪気払いや豊作祈願の儀式や祭事を行ったり、熱さ払いの扇や団扇に関する行事を行ったり女性のクネタギ(ブランコ)、男性のシルム(モンゴル相撲のような伝統的な朝鮮相撲)などの伝統遊戯が伝わっているが、子どもだけを対象とした民俗的な意味を持った行事は全く存在していない。

さて、1922年5月の「全国児童愛護デー」に戻ると、これは事前の心配をよそに全国各地での行事は盛況だったようで、「各地では全く自覚的に、それぞれ非常の熱心をもって計画が行われた」「大阪や京都の盛んな大仕掛けな意気込みは、まことに驚嘆すべきものであった」<sup>28</sup>と記録されている。

続いて、東京で制作されたポスターについて報告されており、「色刷りポスターをつくって、

市内の各巡査派出所、大商店、湯屋、その他市内各所」に掲げ、「中央に桃色地に白ぬき大字で「こども第一、家の寶、國の寶」と大書し、右に緑字で、「わが子かわいきや ひとの子も」の標語をあらわし、左に「児童愛護デー」、5月5、6、7日、主催、日本幼稚園協会、東京市保育会と記した。桃色と若草色との可愛らしい色合いが人の目をひいた」<sup>29</sup>と報告された。

「児童愛護デー」で大切だったのは、こうしたポスターの掲示やビラの配布による宣伝事業の他、子供の養育に当たる家庭の主婦であり一般市民への啓蒙教育であった。東京では二日間にわたって23の講演会が行われ、その演題と講師名が「会報」に報告された。東京女子高等師範学校教授・倉橋惣三「欧米に於ける児童愛護の近状」、文学博士・下田次郎「家庭教育」、内務省囑託・生江孝三「児童福祉運動」などである。

最後に書かれた講評では、「今度の児童愛護宣伝で特にねらったのは、社会的児童愛護であった」として、児童の無料診察が行われたことが特筆されている。「日本における社会的児童愛護の最も急務として、児童の健康相談所をたくさん設ける必要がある時」、今回の「全国児童愛護デー」の行事が大きな宣伝になったと総括された<sup>30</sup>。

## 7. おわりに

方定煥が1922年5月1日に最初の「オリニナル」を挙行したとき、日本では、5月5日の端午節の日を中心に、「全国児童愛護デー」が、東京、大阪、京都、神戸、広島など全国一斉に開催されていた。チラシやポスターで児童愛護を宣伝し、子どもたちは旗を振りながら行進し、子どものための口演童話会や大人のための講演会が開催された。児童の健康、福祉、教育、権利をアピールする啓蒙行事であった。

1922年というのは、日本では、全国水平社が創立され、日本の最初の人権宣言といえる「水平社宣言」が読み上げられた年でもある。3

月3日のことだ。水平社は被差別部落解放を訴える人権運動団体であるが、同様に、労働者階級の解放運動、近代の抑圧された人々の人権運動としてプロレタリア運動もこのころから活発になってくる。子ども向けのものは、1929年5月に刊行された『少年戦旗』が代表である。創刊号の翌々月の1929年7月号では、朝鮮の「オリニナル」も大きく紹介された。これは、「オリニナル」をプロレタリア運動、階級闘争と見なしたもので、朝鮮の労農少年との連帯が叫ばれた。

筆者は、1922年5月に日本で開かれた「全国児童愛護デー」の行事は、まさに日本における全国的なオリニナル行事であると見なしたが、『少年戦旗』が朝鮮のオリニナルを労農少年の解放運動と見なしたように、方定煥のオリニナルは、反植民地的な独立運動であり抑圧された民族と子どもたちの解放運動としてとらえることができる。

一方で、日本のものは、巖谷小波の「子宝は真の国の宝なり」という言葉が象徴しているように国家主義的なものであった。

1922年5月、朝鮮と日本で共に行われていた「オリニナル」行事。方定煥のオリニナルは、反植民地・独立運動・民族運動として、抑圧された民族と子どもの人権を解放する運動である一方、日本のものは、巖谷小波の「子宝は真の国の宝なり」という言葉や、端午の節句で飾られる武者人形や甲冑に象徴されるように、国力増強のための強い子どもを願う国家主義的なものであった。

帝国主義と民族主義の相克のように見える日韓のオリニナルであるが、実は、1922年というのは、3月3日に日本の最初の人権宣言といわれた「水平社宣言」が発表された年でもあり、東京の上野公園では、広範囲な上野公園全体を使って大規模な「平和記念東京博覧会」が開催された年でもある。1100万人もの来場者があり、英国皇太子も来日した大変大きな博覧会であった。平和記念東京博覧会が開催された

1922年。第一次世界大戦後の平和な国際社会を憧れる東京の社会的雰囲気はいかほどだったのだろうか。そしてそうした東京の空気を吸っていた方定煥は何を考えただろうか。同年5月1日に天道教少年会設立1周年を記念したオリニナル行事を京城で開催し、5月19日は義父で3・1独立運動を主導した天道教第三代教主孫秉熙の死去に直面しながら、7月には方定煥最初の著書であり、朝鮮語によるほぼ初めての世界名作童話集といってよい『愛の贈り物 (사랑의 성물)』(開闢社)の出版を成し遂げた。翌年3月に方定煥が創刊した児童文芸誌『オリニ』と5月1日の少年運動協会主催「第一回オリニナル」の開催まで、韓国児童文化・文学史の草創期はこのような日本の近代史と連動して形成されたのである。

\*本稿は、日本学術振興会科学研究費(基盤研究(C))、(課題番号:19K00535)「近代朝鮮少年運動と韓国児童文学成立期の研究」による研究成果の一部である。

\*本稿は、2022年7月22日～24、大韓民国ソウル大学で開催された「2022年国際方定煥学術フォーラム“21세기, 어린이라는 세계의 인간과 문학(21世紀, オリニという世界の人間と文学)”」(ソウル大学国語国文学科BK研究チーム・社団法人方定煥研究所主催)において7月22日に韓国語で発表・討論した内容をもとに、日本語で大幅に書き直したものである。

\*上記国際学術フォーラムで口頭発表した内容は方定煥研究所『方定煥研究』第8号に掲載された(韓国語)「(어린이날 한일 비교연구—1922년 전후를 중심으로—)바정환연구소『방정환연구』8권, 2022年, 9月30日, PP.135～180)

近代日韓 子どもの日関連 年表		
		2022年 筆者作成
【凡例】*本稿で直接言及している重要な事項は太字とした。 *方定煥と朝鮮のオリニナル関連事項はイタリックにし、下線を付した。		
年	事項	備考
1914～1918年	第一次世界大戦	
1914年	*こども週間(アメリカ)	*シカゴとニューヨークで開催
1916年	*こども週間(アメリカ)	*アメリカ労働省児童局・婦人協会主催。展覧会・講演会・健康診断・こども行列などを行い、新聞雑誌には育児問題を掲載
1917年	ロシア革命	
1918年	*子どもの年(アメリカ)  *7月、米騒動 *7月、『赤い鳥』創刊	*アメリカで実施。「児童の保健は国民の威力なり」という標語の下、1年間に及ぶ全国的な運動。
1919年	* <u>3月:3・1独立運動</u> *11月:『金の船』創刊 *12月:模範家庭文庫『世界童話寶玉集』富山房刊行	
1920年	*6月19日:東京音楽学校大講堂で慈善音楽会開催。 * <u>9月頃:方定煥、渡日</u> *10月24日～11月22日:児童衛生展覧会 *11月26日:日本幼稚園協会評議員会決議	*幼稚園に加え、児童保護のための託児所などの発展のために資金集める。  *内務省主催 *東京教育博物館 *『幼児教育』創刊20周年。大々的に幼児の養護、その教育の宣伝をし、特に「子供日」ともいうべき日を定めるべき。
1921年	* <u>4月9日:方定煥、東洋大学専門部文化学科入学</u> *4月23日「児童保護宣伝」 * <u>5月1日:天道教少年会設立</u> *5月:柳宗悦「朝鮮民族美術展覧会」開催 *11月6日:大阪「コドモ宣伝デー」  *11月21～26日:「児童保護宣伝」	*日本幼稚園協会主催  *神田で開催  *大阪市保育会、大阪児童学会、日本児童協会、日本児童協会、大阪コドモ研究会、コドモ用品研究会が共同で主催。 *東京市児童校外保護会主催。ピラを30万枚配布。6行の文句が書かれているが、後の1923年5月1日に朝鮮で配布されたオリニナルのピラに書かれた文言中類似の節を認めることができる。

1921年	* 全国保育者大会	* 帝国教育会主催「全国保育者大会」において1922年5月5日の「全国児童デー」の開催とこれを日本幼稚園協会に委託することが決議される。
1922年	<p>* 1月：絵雑誌『コドモノクニ』創刊</p> <p>* 3月3日：全国水平社創立</p> <p>* 3月10日～7月31日：平和記念東京博覧会</p> <p>* 3月：全国児童デーに関する調査報告</p> <p>* 4月13日：少年団日本連盟（ボーイスカウト日本連盟の前身）創立</p> <p>* 5月：ピオネール（レーニン記念全ソ連邦ピオネール）設立決定</p> <p>* <u>5月1日：オリニエ ナル宣言</u></p> <p>* 5月5日：「全国児童愛護デー」</p> <p>* 青少年赤十字活動開始</p> <p>* <u>7月：方定煥『愛の贈り物』創刊</u></p> <p>* 7月15日：日本共産党結成</p> <p>* 12月30日：ソビエト社会主義共和国連邦成立</p>	<p>* 京都市岡崎公会堂にて創立大会開催</p> <p>* 水平社宣言</p> <p>* 上野公園にて開催</p> <p>* 来場者1100万人</p> <p>* 英国皇太子も来日</p> <p>* 「幼児教育」第22巻第3号、3月号付録1～10頁</p> <p>* <u>天道教少年会創立一周年記念</u></p> <p>* 東京、大阪、京都、神戸、広島など全国一斉に行われる</p> <p>* 東京は5月5、6、7日開催</p>
1923年	<p>* <u>3月20日：方定煥『オリニ』創刊</u></p> <p>* <u>5月1日第一回オリニナル</u></p> <p>* 9月1日：関東大震災</p>	
1929年5月	* 『少年戦旗』創刊	<p>* 1929年5月～1931年12月、戦旗社、月刊誌。</p> <p>* 『戦旗』（1928年5月～1931年12月、戦旗社、月刊誌）の付録として創刊された。</p>

## 一次資料

### 【韓国語】

- ・影印本『어린이』1～9, 普成社, 1976年
- ・未公開『어린이』1～4, 소명출판사, 2015年

### 【日本語】

- ・E・ケイ著、大村仁太郎訳『二十世紀は児童の世紀』同文館、1906年
- ・『少年戦旗』戦旗社、1929年5月、創刊号(戦旗復刻版刊行会編、1977年)
- ・『戦旗』戦旗社、1928年5月、創刊号
- ・東京教育博物館編『東京教育博物館一覽 大正九年』1920年11月10日
- ・『東京朝日新聞』朝刊5面、1921年11月22日
- ・内務省『児童の衛生』1921年5月
- ・日本幼稚園協会『幼児教育』第20巻第11号、1920年11月
- ・日本幼稚園協会『幼児教育』第21巻第5号、1921年5月
- ・日本幼稚園協会『幼児教育』第22巻第3号、1922年3月
- ・日本幼稚園協会『幼児教育』第22巻第5号、1922年5月
- ・三越呉服店「みつこしタイムス臨時増刊」第7巻第8号、1909年7月
- ・三越呉服店「みつこしタイムス」第7巻4号、1909年4月

### 参考文献

- ・李相琴「方定煥と「オリニ」誌—「オリニ」誌刊行の背景—」、大阪国際児童文学『外国人客員研究員 研究報告集1995～1996』1997年
- ・——「日本と韓国にかける児童文化の橋～韓国オリニ文化をとおして考える～」、大阪国際児童文学『外国人客員研究員 研究報告集1995～1996』1997年
- ・이상금『소과 방정환의 생애—사랑의 선물』한림출판사、2005年
- ・李在徹「韓国児童文学の歴史と現状」、児童文学者協会『日本児童文学』1990年6月号
- ・——「1920年代の韓半島の児童書—児童雑誌を中心にして」、『子どもの本・1920年代展

### 図録』1991年

- ・——「韓日児童文学の比較研究(1)」、大阪国際児童文学『外国人客員研究員 研究報告集1989～1990』1993年
- ・李妊炫「方定煥の翻訳童話研究—『サランエソムル(사랑의 선물)』を中心に」大阪大学大学院 言語文化研究科博士論文、2008
- ・——『方定煥の児童文学における翻訳童話をめぐって—「オリニ」誌と「サランエソムル(愛の贈り物)」を中心に』大阪大学大学院 言語文化研究科修士論文、2004年
- ・오오타케 키요미(大竹聖美)「두 사람의 소과—巖谷小波와 方定煥—」、(韓国) 韓国児童文学学会『児童文学評論』第26巻(第1号)、2001年
- ・——「어린이날 한일 비교연구—1922년 전후를 중심으로—」、방정환연구소『방정환연구』8권、2022年、9月30日、pp. 135～180
- ・大竹聖美『植民地朝鮮と児童文化』社会評論社、2008年
- ・——「方定煥研究～誕生から10歳まで・幼少期の生家と時代背景：評伝『小波・方定煥の生涯—愛の贈り物』を読む～」、東京純心女子大学『紀要』第18号、2014年、pp. 53～69
- ・——「方定煥と天道教—孫秉熙の三女との結婚まで～評伝『小波・方定煥の生涯—愛の贈り物』を読む～」東京純心女子大学『紀要』第19号、2015年、pp. 1～21
- ・——「1919年前後の方定煥—<小波(소파)>の由来と3・1独立運動」東京純心大学『紀要』現代文化学部、第20号、2016年、pp. 9～27
- ・——「韓国近代児童文学創成期における愛—方定煥の児童文学における愛」、東京純心大学キリスト教文化研究センター紀要『カトリック文化』第10号、2017年、pp. 1～43
- ・——「新文化運動と方定煥—李相琴『小波・方定煥の生涯—愛の贈り物』に見る天道教青年会発足と『開闢』創刊」東京純心大学『紀要』現代文化学部、第21号、2017年、pp. 1～12
- ・——「方定煥の東京留学—李相琴『小波・方



- 定煥の生涯—愛の贈り物』を読む」東京純心大学『紀要』現代文化学部、第22号、2018年、pp. 1～20
- ・——「近代朝鮮における<童話>の形成過程—方定煥が翻案したイソップ寓話「ソウルねずみと田舎ねずみ」と創作童話「田舎ネズミのソウル見物」の考察—」東京純心大学『紀要』現代文化学部、第24号、2020年、pp. 1～19
  - ・——「韓国児童文学成立期の探究と1921年前後の方定煥の足跡—伝記的考察と史跡踏査を中心に」東京純心大学『紀要』現代文化学部、第25号、2021年3月、pp. 1～13
  - ・——「1923年、児童雑誌『オリニ』創刊と朝鮮少年運動：方定煥の朝鮮の子ども認識と「オリニ賛美」」東京純心大学『紀要』現代文化学部、第26号、2022年3月、pp. 1～15
  - ・——「近代韓国児童文学の開拓者・方定煥と現代韓国絵本の開拓者・柳在守の共通点—韓国の児童図書出版における個の尊厳とアイデンティティー」、日本口承文芸学会『口承文芸研究』45号、2022年3月、pp. 61～71
  - ・神野由紀「百貨店の子供用品開発—三越呉服店を例に」『百貨店の文化史』世界思想社、1999年、p. 183
  - ・金永順『植民地時代の日韓児童文学交流史研究—朝鮮総督府機関紙「毎日申報」子ども欄を中心に—』梅花女子大学大学院博士学位請求論文、2006年
  - ・是澤優子(1995)「明治期における児童博覧会について(1)」『東京家政大学研究紀要』第35集、pp. 159～165
  - ・——(1997)「明治期における児童博覧会について(2)」『東京家政大学研究紀要』第37集、pp. 129～137
  - ・——(2008)「大正期における三越児童博覧会の展開」『東京家政大学博物館紀要』第13集、pp. 39～46
  - ・조성운『소년운동을 민족운동으로 승화시킨 방정환』역사공간、2012年
  - ・首藤美香子(2008)「幼稚園教育と児童保護宣伝：1920～1922—交錯する視線—」『幼児教育史研究』第3号、pp. 33～48
  - ・——(2013)「『こどもの日』の社会史試論」『白梅学園大学・短期大学紀要』第49号、pp. 1～15
  - ・仲村修『韓国・朝鮮児童文学評論集』明石書店、1997年
  - ・中村喜代子(1997)「近代日本における<子ども>イメージとこども博覧会—三越におけるこども博覧会の濫觴—」『美術教育学』18巻、pp. 215～225
  - ・——(1998)「近代日本における<子ども>イメージとこども博覧会2—こども博覧会の端緒について—」『美術教育学』19巻、pp. 223～235
  - ・黄善英「交錯する童心—方定煥と同時代日本文学における「子ども」—」、東大比較文学会編『比較文学研究』88、2006年
  - ・——『「童心」の思想と詩法—日韓近代の童謡運動』東京大学大学院博士学位請求論文、2007年
  - ・前島志保「児童観史観の中の方定煥」東大比較文学・文化研究会『比較文学・文化論集』1996年
  - ・민윤식『방정환 평전』스타북스소파、2014年
  - ・엄희경『소파 방정환과 근대 아동문학』경진、2014年
- 
- <sup>1</sup> 文化体育観光部・国立民俗博物館「韓国民族大百科事典」<어린이날>、2022年12月17日閲覧<어린이날-표제어-한국세시풍속사전-한국민속대백과사전 (nfm.go.kr)>
- <sup>2</sup> 1922年5月1日のオリニナル宣言では、「어린이의 말」というように<의>の字が入っていた。
- <sup>3</sup> 1901年1月、『婦人と子ども』の名称で創刊。『婦人と子ども』(1901年1月～1918年12

月)、『幼児教育』(1919年1月～1923年6月)、『幼児と教育』(1923年7月～)と幾度か名称を変えながら、2022年現在も刊行されている。東京女子師範学校(現お茶の水女子大学)内に置かれた日本幼稚園協会によって編集・出版された。

4 「児童保護宣伝の盛況」『幼児教育』第21巻第5号、1921年5月、p. 181

5 『東京朝日新聞』1921年4月24日夕刊、2面

6 「日本幼稚園協会評議員会」『幼児教育』第20巻第12号、1920年12月号、p. 426

7 『東京朝日新聞』朝刊5面、1921年11月22日

8 李延炫. (2007). 方定煥の翻訳童話と『金の船』. 日本문화연구, 22, pp. 375-398.

李延炫. (2007). 方定煥 湖水の女王をめぐる. 동화와 번역, (13), pp. 261-294.

이정현. (2007). 方定煥의 譯童話と [新譯繪入模範家庭文庫]. 日本근대학연구, (16), pp. 101-116.

이정현. (2008). 方定煥의 翻譯童話の一考察—[おとぎの世界] [童話] からの翻譯作品との關係をめぐって. 日本근대학연구, 21, pp. 127-151.

李延炫. (2008). 方定煥의 翻譯童話研究: 『サランエ ソンムル (사랑의 선물)』を中心に. 大阪大学言語文化研究科言語文化専攻. 博士学位論文.

김영순. (2017). 어린이지와 일본 아동문예 잡지에 표상된 동심 이미지 고찰. 한국문학연구학회. 현대문학의 연구, 62, pp. 7-57

朴鍾振, 張晟喜 [翻譯](2019). 方定煥의 翻譯作品研究: 〈耳の聞こえない家鴨〉と〈プルノリ〉を中心に. 法政大学国際日本学研究所『国際日本学』16, pp. 35-59

9 어른들에게 드리는 글

一、어린이를 내려다보지 마시고 쳐다보아 주시오.

一、어린이를 가까이하시어 자주 이야기하여 주시오.

一、어린이에게 경어를 쓰시되 늘 부드럽게

하여 주시오.

一、이발이나 목욕 같은 것을 때맞춰하여 주시오.

一、잠자는 것과 운동하는 것을 충분히 하게 하여 주시오.

一、산보와 원족 같은 것을 충분히 하게 하여 주시오.

一、어린이를 책망하실 때에는 쉽게 성만 내지 마시고 자세자세 타일러 주시오.

一、어린이들이 서로 모여 즐겁게 놀만한 놀이터나 기관 같은 것을 지어 주시오.

一、대우주의 뇌신경의 말초는 늙은이에게 있지 아니하고 젊은이에게도 있지 아니하고 오직 어린이 그들에게만 있는 것을 늘 생각하여 주시오.

10 内務省『児童の衛生』1921年5月「発刊の辞」

11 同上、p. 123

12 同上

13 1921年4月23日実施、日本幼稚園協会主催「児童保護宣伝」

14 1921年11月6日実施、大阪児童学会・日本児童協会他主催「コドモ宣伝デー」

15 「全国に子供デーを行う件」「全国保育者大会の概況」『幼児教育』第21巻第12号、1921年12月、p. 418

16 「全国児童デーに関する調査報告」『幼児教育』第22巻第3号、1922年3月、付録p. 1

17 同上

18 「全国児童デーに関する調査報告」『幼児教育』第22巻第3号、1922年3月、付録p. 3

19 同上、付録p. 3

20 同上、付録p. 1

21 同上

22 同上、付録pp. 5～6

23 同上、付録p. 3

24 「東京朝日新聞」朝刊5面、1922年5月4日

25 同上

26 首藤美香子(2013)「[子どもの日]の社会史試論」『白梅学園大学・短期大学紀要』49、pp. 1～15

<sup>27</sup> 改訂新版・世界大百科事典「端午」

<sup>28</sup> 「会報」『幼児教育』第22巻第5号、1922年5月、p. 169

<sup>29</sup> 同上、p. 170

<sup>30</sup> 同上、p. 172

